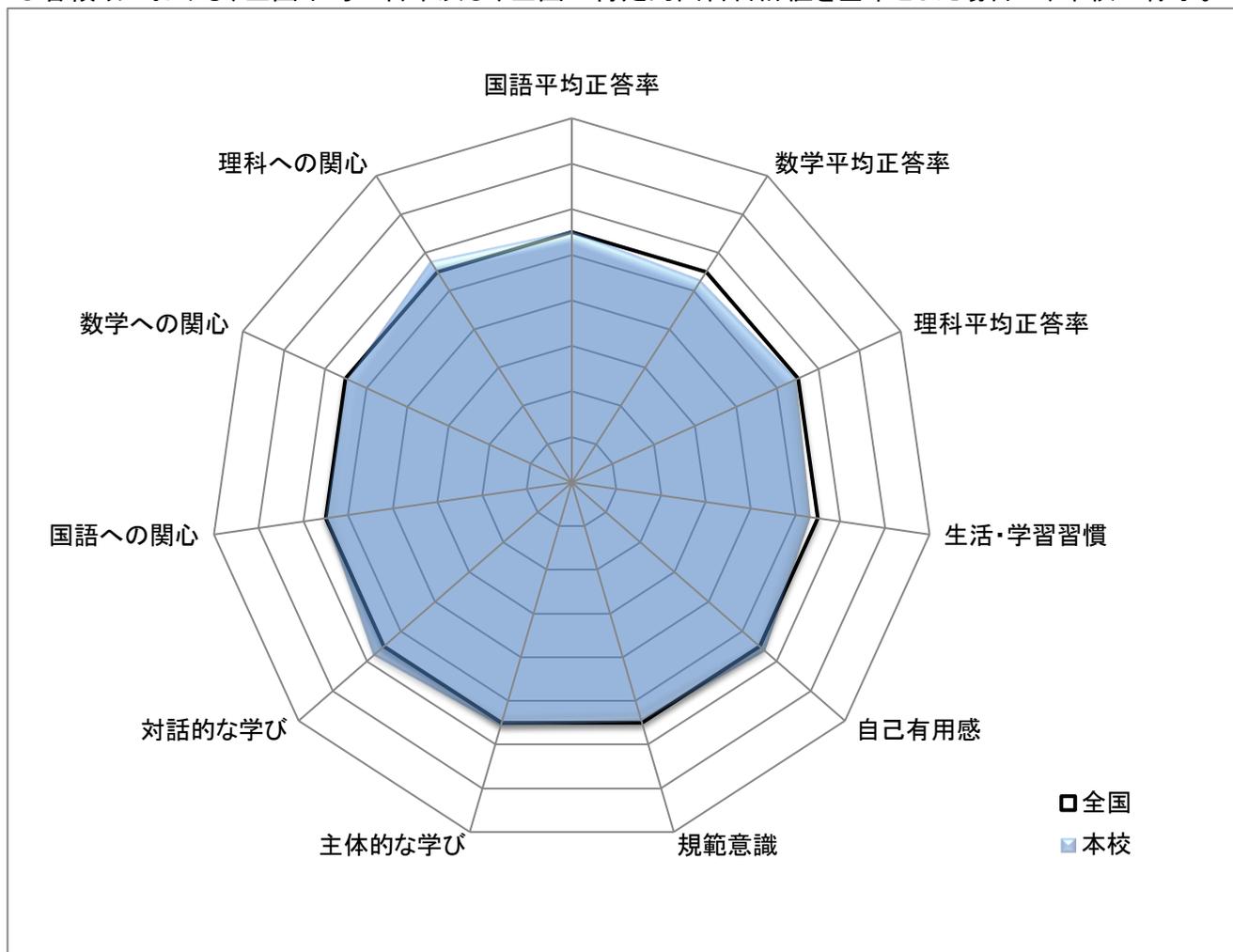


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

【国語】全国平均 ±0ポイント
「読むこと」が+2.5ポイント「言葉の特徴や使い方に関する事項」が+2.3ポイントである。「情報の扱いに関する事項」「書くこと」が共に-6.4ポイントである。
【数学】全国平均 -2.4ポイント
「データの活用」が+3.7ポイント、「関数」が+3.1ポイントに対し「数と式」-8ポイントである。
【理科】全国平均 -0.3ポイント
「粒子を柱とする領域」の正答率が+2.8ポイントである。「地球を柱とする領域」が-2.5ポイントである。

《授業改善のポイント》

【国語】
基礎基本を徹底するとともに、思考力・判断力・表現力の向上につなげるような授業実践を心がける。また、班活動、ICT機器の活用を取り入れ、情報の扱いについて理解が深まる指導を行う。
【数学】
基礎的・基本的となる知識や技能を身につけさせるとともに、思考力・判断力・表現力を育てるために、教え合いやグループ活動、ICTを活用する。習熟度に合わせた進度、教材を考え、単元内容の理解が深まるように指導する。
【理科】
グラフからの読み取りなどの思考力を育てるために実験結果からの考察を話し合い活動なども取り入れながら丁寧に行う。基礎的な知識を確実に身につけるように指導を行う。

《チャートの特徴》

ほぼ全国平均と同等の値となった。質問紙に対する回答では、自己有用感、主体的な学び、対話的な学びについて値が比較的高い。それに対し、生活・学習週間の項目の値がやや低い。各教科への関心は国語、数学、理科の3教科共に全国平均とほぼ同等か、上回っている。平均正答率はほぼ同等だが、数学がやや全国平均を下回っている。

《家庭・地域への働きかけ》

学校教育に対して理解を示し協力的な家庭が多い。三者面談や保護者会、学年だより、学校HPなどを通して本校生徒の課題について周知し、改善を働きかけ、学力の向上、学校生活の安定を図っていく。

৯৫